

■ 議題

今回の審議委員会は、1月16日（土）午後1時30分放送の、田中曜子ナビゲーターが旅行で実際に訪れた場所を紹介するコーナー『曜子の旅日記』と、1月11日（月）午前11時30分放送の花について紹介する新コーナー『Hits garden～SORA NO IRO～』（第1回目）を聴いて審議に入った。

※ 『曜子の旅日記』は、毎週土曜日午後1時30分より放送。

※ 『Hits garden～SORA NO IRO～』（以下、空の色）は、毎月第2・第4月曜日午前11時30分より放送。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の審議会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取していただいた番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、試聴したコーナーの内容や、普段聴いている放送についてなど、順次、意見ををお願いしたい。

後藤委員： 『曜子の旅日記』の中で「築地」の話をしてしたが、私も何回か東京に行き、築地にも行った事があったせいか、築地の様子が頭に浮かんだ。内容を省略していると思うけど、聴いている方に、手軽に食べることができる店や変わった店、高山に無い店などを紹介すれば、今度、東京に行った際に興味が沸き、築地に行きたくなるのではないかな。
『空の色』については、第1回目ということで緊張している感じがした。「花」の事をラジオで紹介するのはとても難しいと思う。特に普段聞き慣れない「アルストロメリア」という花は頭に浮かばなかった。花の姿・形をラジオで伝えるのは難しいと思うが、竹内さん（花屋のスタッフ）の言葉だけではなく、ナビゲーターの人が表現をフォローしてあげると良いと思った。花の色の話でも「アンティークな色合い」というのが出てきたけど、どんな色なのか分からなかった。
話の中で、今回は「アルストロメリア」と「スイートピー」2つの花が出てきたけど、ラジオなので、目に浮かぶような表現をして頂くと良いと思った。そうすると「買いに行こうかな」という気持ちになると思う。例えばスイートピーは「門出」という花言葉を持っていると言っていたけど、こういう場面に使う（贈る）と良いという紹介をして欲しい。私は、嫁の誕生日の時ぐらいにしか花を買わないので、どんな場面でどんな花を買う（贈る）ということが分かれば、店ももっと流行るのではないかなと思う。

大萱委員長： そうゆう意味では「花」を言葉だけで表現するのは難しいと思う。特に男性は分からないと思う。

土屋委員： 『曜子の旅日記』は、年末の買い出しシーズンに「築地」って良い題材だと思った。ただ、現地の音声とかが入ると臨場感が出て良いと思った。お客さんも居て賑わっていると思うし、店の方の声など威勢のいい声とかが入っていると良いと思った。

『空の色』は、私も同じで花の名前を聞いただけでは花の色・形が思い浮かばなかったのもう少し説明が欲しかった。ただ、題材としては「花」はたくさん種類があるので、今後も続けていけるのかなと思った。

大萱委員長： 現地の音声とか録音することは可能なのか？

会社側： 今後、行く所であれば、録音して放送出来ると思う。

大萱委員長： 是非、チャレンジして頂きたい。

田谷委員： 『曜子の旅日記』については、本人（田中ナビゲーター）が今日、この会議に出席していることは抜きにして、分かりやすいし、とても良い内容だと思った。地元の話ばかりでなく、たまには少し離れた場所の話に触れるのも良いと思った。ただ、他の場所での色々な思い出話を、広く浅くよりは、深く掘り下げたかたちで、田中ナビゲーターだけが味わったり知ったりしたことを話せば、喜ばれるのではないかなと思った。『空の色』については、実際に今回の企画・コーナーの意図が分かり難いと感じた。1回目しか聴いていないので、これからの展望が既にあるのかもしれないが…。今後、順番に花の種類を紹介をするのかなと考えられるが、それをリスナーが求めているのかが分からない。やはりビジュアルが無いので、限界がある中でどのような内容にしたら良いのか、例えば、お葬式の花であったり、お見舞いの花であったり、また季節に応じての使い分けだったり、日常生活や冠婚葬祭などでの「花の存在」っていうのがあるので、そのような事に役立つような内容に持っていったほうが良いと思った。

大萱委員長： 『空の色』について、コーナー開始後、何か話し合いはあったのか？

会社側： 『空の色』の第1回目の放送後、担当の辻井ナビゲーターと竹内さん（花屋のスタッフ）、岩田社長（花屋の社長）の3人で、今後の話し合いをした。この話し合いに私（大岩部長）は参加していない為、具体的にどのような話をしたのか分からないが、1回目の放送内容が岩田社長の考える趣旨と違った為、岩田社長から色々な指摘があり、2回目以降で改善していきたいということだった。田谷委員の指摘も含め、辻井ナビゲーターに伝えて、番組に反映させるようにしていきたいと思う。

大萱委員長： 竹内さんのトーンが低いと感じた。竹内さんは素人なので大変難しいと思うが、辻井ナビゲーターが盛り上げて明るいコーナーにして欲しいと思う。
ところで、田中ナビゲーターはこのコーナーのために、どんどん旅をするのか？

田中ナビ： 私はもともと旅が好きで、これまでの旅は、コーナーのネタに使うために旅をしていなかったのによく覚えておらず、当時の事を思い出しながら紹介している。最近だと取材を兼ねて行くことが多い。先ほど話があったが、バランス良くとか、どのネタを紹介していくかは試行錯誤している。今後、私が実際にその場所に行って分かった事、感じた事の紹介と、リスナーに役立つ内容を織り交ぜて紹介していきたいと思う。

大萱委員長： 田中ナビゲーターはデビューしてから宮ノ下ナビゲーターとの掛け合いの番組を担当しているのか？

田中ナビ： 毎週土曜日の午後1時から午後7時までは、宮ノ下ナビゲーターと2人で番組を担当している。さらに昨年の4月からは、毎週木曜日の午後1時から午後4時の番組を1人で担当している。

田中委員： 『囃子の旅日記』については、具体的に店がいくつあるとか、バスガイドから聞いた話だとか、聴いていて良く調べている印象を受けた。ただ、やはり現地の声が聴けると良いと思った。
『空の色』については、第1回目ということで試行錯誤していると思うが、現時点では広く浅くやっているコーナーだと思った。何か1つの「花」を深く掘り下げていくようなコーナーになっていくと良いと思った。今後期待したい。

溝上委員：『曜子の旅日記』について、私は「築地」に行ったことがないけれど、ラジオを聴いて「こんな所なのだな！」という感じのイメージが沸いた。ひとつ気になったのが、言葉のつなぎ目に「あの～」とか「えっと～」などの言葉が所々に入っているのも、なるべく無くしていけばもっと良い番組になるのではないかと思う。これからも色々な情報を発信して欲しい。

『空の色』については、先ほど話があったとおり、全体的に落ち着いた雰囲気があったので、まだ1回目ということもあるが、もっと元気のあるコーナーにして頂きたいと思う。ただ「花」に着目している点は面白いと思う。ぜひ、これからも続けて欲しい。

原委員：『曜子の旅日記』については、自分の店のラジオで何回か聴いたことがあるけど、良いイメージがある。「旅日記」ということで、色々なエピソードを織り交ぜながら紹介していると思う。ラジオなので、想像力とかイメージとか、聴きながら頭の中で「どういう所なのか」を訴えていかないと、なかなかコーナー自体が良くなれないと思うが、このコーナーに関しては面白いと思った。ぜひ、いろいろ自分で気が付いたところなど、素直な感じで紹介してもらおうと良いのではないか。逆に、情報ばかりを詰め込みすぎるとよく分からなくなってしまうので、絞り込んで紹介すると良いと思う。先ほども言ったように「その場所がどういう所なのか」を、イメージが沸くような紹介の仕方を考えていければ良いと思う。難しいことだが頑張ってもらいたい。また、毎週土曜日の午後から一緒にやっている宮ノ下ナビゲーターとの掛け合いが面白い。

大萱委員長：『曜子の旅日記』の「築地」に関しては、2回ぐらいに分けて放送したのか？

田中ナビ：話題が多すぎる時は、前半・後半に分けてとか、1回・2回に分けて放送するが、今回の「築地」は凝縮して1度に放送した。

大萱委員長：無理せず、何回かに分けて放送すれば「続きが聴きたい」となると思うので、そういう意味では期待感をもたせるコーナーになっていけば良いと思う。委員から貴重な意見が出たので、ぜひ、参考にして頂きたい。他に、通常番組や気になった事など、意見があればお願いしたい。

原委員： 何時頃か忘れたが「朗読のコーナー」で、たまたま聴いていたら30分ぐらい放送していた。朗読の内容は良かったのだけど、あまり長すぎると飽きてしまいどうかと思った。途中で音楽を入れたりしてブレイクすれば良いと思った。

会社側： 昨年の夏に30分ぐらい朗読だけを放送したことがある。また、再放送を夜の遅い時間帯に放送した。

「あめんぼの会」という団体の20周年記念イベントの様子を録音して放送した。1話が長いので途中で切ることができず、30分の時間を使って放送した。

大萱委員長： 朗読の本放送は何時だった？夕方は再放送？

会社側： 現在、朗読は火曜日の「いろりばた」と、木・金曜日の「語り部ねっと飛騨高山」の2団体の放送があり、本放送はどちらも午前11時30分から放送している。再放送は「いろりばた」が、毎週土曜日の午後12時20分ごろから、「語り部ねっと飛騨高山」が、毎週日曜日の午後5時ごろから2話続けて放送している。

大萱委員長： 朗読については、長くなる時は放送にメリハリを付けるなど考えて欲しい。

それと、たまに選曲で季節感と全くかけ離れた曲を選んで流しているナビゲーターがいる。冬場に「ハワイアン」な曲が流れたり…。個人的には、そういうのも面白いとは思うけど、知り合いから指摘があったし、あまりにも季節とかけ離れた曲はどうかと思う。

会社側： 現在、午前7時から午後7時まで生放送で番組を進行しており、勿論、各時間帯で、選曲が重ならないようにしている。番組によっては、テーマに沿って選曲をしたり、最新の曲を中心に届けている。その時は、もしかしたら、そのアーティストの誕生日だったりして、そのような選曲になったのではないかと思う。

指摘どおり、あまりにかけ離れた曲はどうかと思うが、番組の「差別化」という意味では、そのような選曲も有りではないかと思う。最初から聴いている方は、意味があってこの曲を流しているのかが分かると思うが、途中から聴いた方は「冬なのに何でこの曲？」となるのかもしれない。

大萱委員長： できたら途中から聴いているリスナーに対して、曲始めと曲終わりにコメントを紹介すれば「そういう意図で流しているのだな」と分かるのではないか。ただ単純に、季節感の無い曲をかけられると「なんでこの曲？」と思うリスナーもいると思う。そういう意見もあったということで参考にして欲しい。

それと、先日、大岩部長と一緒に出席した「観光大学ゼミ」で災害時について触れていたけれど、これだけ高山にも外国人観光客が多く訪れると、災害時にどのような対応をしていくのかを考えなければならない。もちろんヒッツFMも大きな存在を担うことになるけれども、例えば大きな地震が発生した場合、ヒッツFMではどういう体制になっているのか教えて欲しい。

会社側： スタジオの中に「緊急用の地震情報」の読み原稿があり、放送中だったら、ナビゲーターが迅速に対応できるようにしている。しかし、外国人向けではなく、市民向けや日本人向けの紹介になっている。あとは、高山市役所の危機管理室と連絡と取り合って情報を伝えるようにしている。

大萱委員長： 放送はヒッツFMのスタジオだけでなく、高山市役所からも放送ができるのか？

会社側： 放送できる環境になっている。

大萱委員長： その場合、やり取りをしながら、ヒッツFMのスタジオと高山市役所のスタジオで相互に放送するのか？

会社側： 実際にやり取りをしたことが無いけれど、災害時は対策本部が高山市役所にできるので、その時は、高山市役所からの放送に切り替わる。ただ、ヒッツFMが生放送中だったら、高山市役所などから情報収集して、ヒッツFMで放送するようにしている。
現在、ヒッツFMに外国人向けの災害情報マニュアルはない。

大萱委員長： そうすると、いきなり英語や中国語で紹介することは不可能だから、英語や中国語のマニュアルを事前に録音して放送するとかになるよね。その辺りはどうなのか？

会社側： 先日の「観光ゼミ」では、マニュアルの中に英語で書かれたものがあったので、それを参考にしながら、今後、アナウンスを録音して、いつでも放送できる体制にしたいと思う。日本語で伝えた後に、英語で録音したものを流すことになると思う。

田谷委員： 高山市としては災害放送に関して、ヒッツFMにお願いしていくかたちだが、実際災害が起きた時には、情報のやり取りというよりも、高山市役所のスタジオで放送するのか、高山市から情報伝達してヒッツFMのスタジオから放送するのか、ケースバイケースだと思う。しかし、その時に外国人にどのように伝えるのかは、確かにマニュアルを作っておかなければいけない。

アナウンスの内容に関しては、例えばデパートなどみたいにパターンを決めて放送する手段もあるが、場所などの説明になると状況に応じて変わるので、パターンを決めるのではなく、高山市役所内で外国語が話せる職員に英語や中国語で伝えてもらうことになると思う。状況に応じて、マニュアル通りではいけない時もあるので、放送で話す人は難しいと思う。

大萱委員長： 誘導方法なんだよね！外国人の。高山市民が外国人観光客に対して「この避難所に進んで下さい」と、経路を英語や中国語などで伝えるのは難しい。例えばジェスチャーで「真っすぐ」などと伝えれば良いのだけど、「ここを曲がって…」など詳しい説明になると難しい。

高山市役所とどう連携していくのが課題だと思う。誘導に関するアナウンスとか、災害時の事を会議の中で言われると対応策を考えなくてはいけない。

会社側： 確かに難しい事だと思う。先ほど話があったように、英語や中国語のほかにもいくつかの外国語が必要になってくると思う。

原委員： 外国人はヒッツFMを聴いているのか？

会社側： 多分、聴いている方はいないに等しいと思う。

ただ、商店街や各店でヒッツFMを流してくれている所でヒッツFMを聴けば、ある程度、外国人にも情報が伝わるのではないかと思う。

原委員： 災害については、高山市役所とヒッツFMがどのように連携を取っていくのかを事前に詰めて、どの程度の災害だったらどうするのかなど考えて欲しい。現時点では、ヒッツFMの放送だけでは難しいことだと思う。基本的には、高山市民を優先的に避難させるほうが大事になってくる。その時に、外国人がいる場合は「一緒に誘導をしてあげて下さい」とか、そういうマニュアルも用意しておかなければいけないと思う。ヒッツFMの放送で、そういう事を高山市民や日本人に対し呼びかけて欲しいと思う。

田谷委員： 具体的な部分は、高山市役所の危機管理室とやり取りをしていかなければいけないが、それと同時に市のホームページで情報を掲載するので、ホームページの内容をヒッツFMでも紹介してもらおうと思う。日本語はもちろん、英語などでも情報を掲載するので、ヒッツFMの放送の中で日本語で紹介した後、英語でも紹介できると良い。その辺りを危機管理室と詰めて欲しい。

大萱委員長： たまたま、災害時にどうするのかという会議があったし、我々商店街としても、どのような対応をするのか話が出たのだが、正直、対応できないと思う。高山市の中心市街地は特に高齢者が多いので、自分の事で精一杯で他の事まで考えられないと思う。なので、ヒッツFMが高山市民に向け放送の中で、避難に困った外国人観光客に対し一言で良いので対応の仕方を呼びかけて欲しい。

田谷委員： 確かに、ヒッツFMを聴いている外国人は少ないと思うが、店の方などがそこにいる外国人にヒッツFMを聴いてもらうようにして、その時に、ヒッツFMが日本語で紹介した後に、英語でも紹介すれば現在の状況が伝わるのではないかと思う。

原委員： 多分、中国語とかでは言わなくても良いと思う。中国人も結構英語を理解していると思う。最低限、英語で紹介できれば十分だと思う。

大萱委員長： 警察の対応はどうか？

後藤委員： 高山警察署では、現在、通訳できる者がいないので、高山市役所や、民間の方をお願いして一緒にやれる体制をとりたい。県警には、通訳できる者がいるので、高山警察署に派遣してもらうよう依頼をしている。高山警察署では「外国人対策」を掲げており、例えば外国人が落とし物をした場合、片言でなんとか対応しているのが現状。しかし、もっと難しい話だと、どこまで対応できるのか分からない。いずれにしても人数が少ないので、民間の方にも協力をして頂かなければならない。

大萱委員長： 災害時は、道路も影響してくると思うけど。国道事務所は、外国人に対してどのような対応をしていくのか教えて欲しい。

土屋委員： 災害が起きたら、当然、対応していくのだが、外国人の対応は考えていない。ホームページなど書面であれば、翻訳して英語表記で紹介すると思うけど、英語を話せる職員は、個々では何人かはいるが、災害については対応していない。

田谷委員： 昨年の8月の豪雨の時に「外国人が川に近づいている」という話をよく聞いた。危険なので、外国人にもヒッツFMの放送で「今、川に近づいてはいけない」などと伝えなければいけないと思う。

大萱委員長： あの時は物珍しかったのか、橋の上から外国人が撮影をしていた。危ないから「Keep Out（立ち入り禁止）」って言えば良かったが、とっさに言葉が出てこなかった。
今後、ヒッツFMで災害時には英語でアドバイスの的なことを紹介したほうが良いと思う。
観光協会はどのような対応を？

田中委員： 観光協会も「観光ゼミ」に出席したが、実際に話を聞いて、何か準備ができているかというのと、何も準備ができていない。今後の対応を、職員、行政で詰めていかなければならないと思った。
英語を話せる職員はいない状況で、高山市役所から英語を話せる職員に来てもらって対応している。英語の通訳はそこに頼るしかない。現状としてはフェイスブックなどを多くの方が閲覧しているのを踏まえ、ホームページやフェイスブックを通じて目で見える情報を発信している。しかし、耳で聴く情報は限界があるので、ヒッツFMと協力していきたいと思う。

大萱委員長： 溝上委員、どんな立場でも良いので考えを聞かせて欲しい。

溝上委員： やはり、ヒッツFMを聴いている外国人は少ないと思うので、少しでも私たちが誘導できるよう、災害時には外国人に一言で良いので情報を伝えていければ良いと思う。実際、その一言で外国人が理解してくれるかは難しいと思うが、簡単な単語で分かりやすく伝えられる一言があったら、ヒッツFMで紹介して欲しい。

原委員： コーナー化にすればいいんじゃない？

大萱委員長： そうそう！そう思った。高山市役所海外戦略室の田中部長が夕方にやっている「おもてなし英会話」を「災害時の一言」として、災害時のワンポイントアドバイスなどを英語を交えて紹介してもらったら良いのではないか。

原委員： 毎週1回、5分でも10分でもやったら良いのではないか。今、一番早く取り組めることだと思う。

大萱委員長： 災害時には同じ情報を繰り返した方が良い！緊急のことなので、ゆっくりしてられない。早急にアクションを起こして欲しい。ヒッツFMの使命なので、今後、制作サイド、ナビゲーターと相談しながら、より良い方法を考えて欲しい。また、高山市役所や官庁の協力も必要となってくると思う。

他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。特に、災害に関して反映できるよう努めていきたいと思う。

■ 審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

1月19日 番組審議委員会の席上で説明

■ その他の参考事項

次回開催日 平成28年3月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）